

平成24年度 第2回

社会教育委員の会議

○日 時 平成24年9月27日（木）
午後2時00分～

○会 場 人材かがやきセンター 研修室

宇都宮市教育委員会

会 議 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 報告事項

- ①平成25年宇都宮市成人式について 【資料1】
- ②宇都宮市民大学（前期講座）の実施状況について 【資料2】
- ③人材かがやきセンター主催講座（前期）の実施状況について 【資料3】

(2) 協議事項

- ①「（仮称）第2次地域教育推進計画」のフレーム（案）について 【資料4】
- ②「（仮称）第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の現状と課題等について 【資料5】

3 そ の 他

4 閉 会

宇都宮市社会教育委員名簿

任期 平成23年7月1日～平成25年6月30日

No.	氏名	区分	備考
1	矢古宇好道	学校教育関係者	栃木県高等学校長会 宇都宮支部
2	鎌田耕介	学校教育関係者	宇都宮市中学校長会副会長
3	村上雅之	学校教育関係者	宇都宮市小学校長会長
4	石嶋勇	学校教育関係者	宇都宮地区幼稚園連合会顧問
5	山本和紀	社会教育関係者	宇都宮青年会議所理事長
6	櫛淵澄江	社会教育関係者	宇都宮市地域婦人会連絡協議会長
7	福田仁	社会教育関係者	宇都宮市体育協会副会長
8	高崎敬三	社会教育関係者	宇都宮市文化協会理事
9	塚田栄一	社会教育関係者	宇都宮市子ども会連合会顧問
10	菅原一浩	社会教育関係者	宇都宮市PTA連合会長
11	吉田治	社会教育関係者	地域まちづくり組織連絡会議代表
12	勝田健一	社会教育関係者	宇都宮市青少年指導員会長
13	磐井怜子	社会教育関係者	宇都宮市民間保育園園長会副会長
14	伊藤三千代	社会教育関係者	晃宝宮っ子ステーションコーディネーター
15	石澤明子	家庭教育関係者	親学習プログラム指導者
◎	16 廣瀬隆人	学識経験者	宇都宮大学教授
	17 河田隆	学識経験者	宇都宮共和大学教授
	18 石川美和	学識経験者	宇都宮大学留学生センター非常勤講師
○	19 木村由美子	学識経験者	市議会議員
	20 齋藤幸子	学識経験者	市議会議員

- ◎ 委員長
○ 副委員長

平成 25 年宇都宮市成人式について

◎ 目的

宇都宮市成人式は、20歳を迎えた新成人の門出を全市をあげて祝い励ますとともに、参加した新成人の「地域社会の一員としての自覚」や「地域に育てられたことへの感謝の気持ち」を育むことを目的として実施している。平成25年宇都宮市成人式についても、成人教育の第一歩として教育的意義を持った事業となるよう取り組んでいく。

1 主催・実施機関

主催 宇都宮市・宇都宮市教育委員会

実施機関 宇都宮市成人式各中学校区会場実施委員会

2 平成 25 年成人式の実施概要

(1) 日時

平成 25 年 1 月 13 日 (日)

① 午前開催

受付 午前 9時30分～午前10時00分

成人式典 午前10時00分～午前10時20分

地域交流事業 午前10時20分～正午

② 午後開催

受付 午後 1時30分～午後 2時00分

成人式典 午後 2時00分～午後 2時20分

地域交流事業 午後 2時20分～午後 4時00分

(2) 成人式の内容

① 成人式典

開式、国歌斉唱、宇都宮の歌斉唱、激励のことば（市長又は市長ビデオメッセージ）、お祝いのことば（市議会議長又は議長代理）、来賓紹介、誓いのことば（新成人代表）、閉式

② 地域交流事業

懇談会、地域の特性を活かした事業等

(3) 会場

25中学校区ごとの会場（ホテル・結婚式場 10施設25会場）

別紙参照

(4) 出席者推計

- ・ 該当者 5,360人
- ・ 出席者 4,030人

(5) 該当者

平成4年4月2日から平成5年4月1日の間に生まれた、本市住民基本台帳に登載されている者

※ ただし、本市出身者で市外に転出した等、本市の成人式への出席を希望する者も対象とする。

- (6) 来賓
 - ・ 市長招待者
国会議員，県議会議員，市議会議員，市社会教育委員，市生涯学習センター運営審議会委員
 - ・ 実施委員長招待者
各実施委員会で決定
- (7) 運営体制
 - ・ 実施委員会
中学校区ごとに実施委員会を組織し，成人式の企画運営を行う
実施委員の構成は，当該中学校区内の新成人及び社会教育関係団体構成員等による（20名程度）
 - ・ 事務局
各生涯学習センターが事務局を担う

3 その他

- ・ 社会教育委員の皆様には，例年通り市長招待者として成人式にご出席をお願いしたいと考えております。
- ・ なお，ご出席いただく会場につきましては，招待状（12月上旬頃発送）に同封の出欠はがきにより，ご希望の会場をお知らせいただく予定となっております。

平成25年成人式会場、実施委員会及び担当生涯学習センター一覧(案)

中学校区	推定 該当者 数	推定 出席者 数	推定 来賓者 数	合計	実施会場		実施委員会	担当 生涯学習センター
					午前開催	午後開催		
一 条	160	120	25	145		護国会館	一条中学校区	中央生涯学習センター
陽 北	230	170	20	190		ホテル東日本宇都宮	陽北中学校区	同上
旭	240	140	25	165		護国会館	旭中学校区	同上
陽 南	310	220	32	252	宇都宮グランドホテル		陽南中学校区	南生涯学習センター
陽 西	380	340	36	376		アピア	陽西中学校区	西生涯学習センター
星が丘	320	310	40	350		アピア	星が丘中学校区	北生涯学習センター
陽 東	440	230	20	250	宇都宮東武ホテルグランデ		陽東中学校区	東生涯学習センター
泉が丘	260	190	23	213		宇都宮東武ホテルグランデ	泉が丘中学校区	同上
宮の原	260	190	23	213		アピア	宮の原中学校区	西生涯学習センター
清 原	240	190	23	213		ホテルニューイタヤ	清原中学校区	清原生涯学習センター
横 川	170	120	14	134		宇都宮ポートホテル	横川中学校区	横川生涯学習センター
瑞穂野	90	80	25	105	ヴィラ・デ・ マリアージュ宇都宮		瑞穂野中学校区	瑞穂野生涯学習センター
豊 郷	230	180	17	197	ホテル東日本宇都宮		豊郷中学校区	豊郷生涯学習センター
国 本	130	100	25	125		ホテル東日本宇都宮	国本中学校区	国本生涯学習センター
城 山	130	100	24	124		コンセーレ	城山中学校区	城山生涯学習センター
晃 陽	110	100	19	119	ホテル東日本宇都宮		晃陽中学校区	篠井・富屋 生涯学習センター
姿 川	230	160	25	185		コンセーレ	姿川中学校区	姿川生涯学習センター
雀 宮	240	150	26	176	ホテルニューイタヤ		雀宮中学校区	雀宮生涯学習センター
鬼 怒	260	180	20	200	宇都宮ポートホテル		鬼怒中学校区	平石生涯学習センター
宝 木	180	120	17	137		アピア	宝木中学校区	北生涯学習センター
若松原	240	200	19	219		宇都宮東武ホテルグランデ	若松原中学校区	南生涯学習センター
上河内	110	100	20	120	ホテル東日本宇都宮		上河内中学校区	上河内生涯学習センター
古里	130	110	8	118	宇都宮東武ホテルグランデ		古里中学校区	河内生涯学習センター
田原	140	120	13	133		二荒山会館	田原中学校区	河内生涯学習センター
河内	130	110	10	120	二荒山会館		河内中学校区	河内生涯学習センター
計	5,360	4,030	549	4,579	14会場	11会場	25中学校区	

開催日	平成25年1月13日(日曜日)		成人式該当者
開催時間	午前開催	午後開催	平成4年4月2日～平成5年4月1日の間に出生した次の何れかに該当する者 1 本市住民基本台帳に登録されている者 2 1以外で、本市成人式への出席を希望する者
受付	午前9時30分～10時	午後1時30分～2時	
式典	午前10時～10時20分	午後2時～2時20分	
記念事業	午前10時20分～正午	午後2時20分～4時	

宇都宮市民大学（前期講座）の実施状況について

◎ 趣 旨

平成24年度宇都宮市民大学（前期講座）の実施状況について報告するもの

1 公開講座

- (1) 開催日時 平成24年5月23日（水） 午後2時30分から午後4時まで
 (2) 会 場 宇都宮共和大学 長坂キャンパス 須賀友正ホール
 (3) 演 題 「共生のまちづくりと教育
 ～東京ディズニー・リゾートとフラガールの事例から～」
 (4) 講 師 須賀 英之 氏（宇都宮共和大学 学長）
 (5) 受講者数 146名

2 専門講座

No.	講 座 名（開講数）	講 師	開催 期間	（募集定員） [応募者数] 受講者数	修了者数 （修了率）
1	鉄道とくらし （全8回） （ふるさと地域学コース）	・宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良 氏 ・鉄道博物館主幹学芸員 奥原 哲志 氏 ・日本信号株式会社久喜事業所 ・東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社営業部販売課 課長 小野 正志 氏	5/29 ～ 7/17	(70) [79] 76	64 (84.2%)
2	生活交通の再生を目指して ～交通から考えるまちづくり～ （全6回） （今を読み解く現代社会コース）	・弁護士 若狭 昌稔 氏 ・国土交通省関東運輸局 企画観光部交通企画課 課長 荒木 智彦 氏 ・宇都宮大学大学院 准教授 森本 章倫 氏	6/1 ～ 7/6	(50) [20] 20 ※研修参加7名 （交通政策課）	11 (84.6%)
3	“こころ”を育てる子育てとは （全6回） （今を読み解く現代社会コース） [宇都宮共和大学連携講座]	・宇都宮共和大学子ども生活学部 教授 牧野 カツコ 氏 教授 加藤 邦子 氏 准教授 山口 晶子 氏 教授 日吉 佳代子 氏 ・いわむらかずお絵本の丘美術館 館長 いわむらかずお 氏	6/1 ～ 7/13	(40) [65] 63 ※研修参加37名 （保育士、保健師）	16 (57.1%)
4	論語が教える人生の知恵 ～今も昔も大切なこと～ （全6回） （暮らしを彩る教養・文化コース）	・史跡足利学校 論語素読運営委員会 委員長 須永 美知夫 氏	5/28 ～ 7/9	(90) [113] 90	74 (82.2%)
5	都市景観を考える ～景観は身近なところから～ （全6回） （暮らしを彩る教養・文化コース）	・作新学院大学 教授 橋立 達夫 氏 ・色彩デザイナー 小花 伸子 氏 ・栃木県屋外広告美術協同組合 相談役 田中 俊夫 氏 ・（社）栃木県建築士会女性委員会 委員長 戸室 康子 氏 ・建築写真家 鈴木 康彦 氏 ・白鷗大学 教授 粕谷 圭司 氏	5/25 ～ 6/29	(30) [8] 8	5 (62.5%)
6	頭の体操でコミュニケーション （全7回） （コミュニケーション学コース）	・宇都宮大学 教授 廣瀬 隆人 氏 ・NPO法人江戸しぐさ 副理事長 桐山 勝 氏 ・埼玉大学 教授 岡部 恒治 氏 ・高子数理研 代表 本間 正幸 氏	5/29 ～ 7/10	(50) [47] 41	35 (85.4%)
計			—	(330) [332] 298	205 (80.7%)

修了率は、4分の3以上の出席者

3 後期講座（予定）

(1) 合同開講式

- ア 開催日時 平成24年10月24日（水）午後2時～
イ 会場 帝京大学 宇都宮キャンパス

(2) 公開講座

- ア 開催日時 平成24年10月24日（水）合同開講式終了後～午後4時
イ 会場 帝京大学 宇都宮キャンパス
ウ 演題 「世界と日本の観光政策と地域経済」
エ 講師 帝京大学経済学部 地域経済学科長 教授 溝尾 良隆 氏

(3) 専門講座

- ア 開催期間 平成24年10月～12月
イ 開催回数 7回～9回程度（公開講座1回を含む）

後期専門講座

No.	講座名	開催期間 (開催曜日・時間)
1	縄文時代の日本そして栃木 ～日本文化のルーツを探る～	11月～ (木曜日 午前)
2	運動器（骨・筋肉・関節）を正しく鍛えて人生を楽しく生きよう	11月～ (金曜日 午前)
3	やすらぎを求めて ～巡礼と健康～	10月～ (火曜日 午前)
4	日曜シェフの『創作料理学』入門 ～豊かな食文化は豊かなまちを作る～	11月～ (金曜日 午後)
5	やさしい経済教室 ～日本経済の再生と地域の活性化～【帝京大学連携講座】	11月～ (木曜日 夜間)
6	コミュニケーション「磨き」講座 ～「気づき」から「築き」へ～【事務局企画講座】	11月～ (木曜日 午後)

※ 講座の実施会場は、人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）

※ 午前⇒10時から12時，午後⇒2時から4時

人材かがやきセンター主催講座（前期）の実施状況について

◎ 趣 旨

平成24年度人材かがやきセンター（前期）の実施状況について報告するもの

1 実施状況

(1) 開催日時 平成24年4月26日（木）～平成24年6月30日（土）

(2) 実施講座 5講座（全1回～全3回の講座）

ア 子どもや先生の「こころ」をサポートするワンランク上の学校支援ボランティア

イ 子どもの“愉快”をコーディネート ～今すぐできるレクリエーション&ゲーム～

ウ イクジイの宮っこ育て講座

エ 先人の生き方に学ぶ「大人の道德時間」 ～没後200年蒲生君平の生き方に学ぶ～

オ 思春期の心と向き合う講座 ～さまざまな相談事例から考える～

(3) 受講者数 延 247名

2 講座内容等

⇒ 別紙「平成24年度人材かがやきセンター主催講座実施状況一覧表」のとおり

平成24年度人材かがやきセンター主催講座実施状況一覧表

No.	講座名（開講数）	講座概要	講師	開催期間	受講者数
1	子どもや先生の「こころ」をサポートするワンランク上の学校支援ボランティア (全3回)	学校支援ボランティアや地域コーディネーターを対象に、更なるスキルアップを目指すとともに、今後も積極的に地域教育活動に参画する人材を育成するための講座	・市子ども家庭支援室 ・宮の原小学校長 浪花 寛 氏 ・西小学校 地域コーディネーター 大山 哲夫 氏 ・西宮っ子ステーション コーディネーター 藍原 洋子 氏	5/31 ～ 6/23	定 30 申 24 受 23
2	子どもの“愉快”をコーディネート ～今すぐできるレクリエーション&ゲーム～ (全3回)	P T A役員や子ども会役員を主な対象とし、子どもやその保護者が安全に楽しく体験活動が出来るようになるために、行事の企画立案・実施方法を学ぶ講座	・市冒険活動センター ・瑞穂台小学校長 高山 裕一 氏 ・宇都宮大学生 小林 慶太 氏, 星 朋絵 氏	5/26 ～ 6/9	定 30 申 19 受 19
3	イクジイの宮っこ育て講座 (全3回)	主に定年後の中老年男性を対象に、家庭・学校・地域などで孫育てや地域の子育て（宮っこ育て）支援など、地域社会での貢献活動が出来るようになるために必要な知識を学ぶ講座	・宇都宮市ベエゴマ協会会長 坂井 勝雄 氏 ・市保育士 ・清原南小放課後子ども教室 コーディネーター 松山 聡子 氏	4/26 ～ 5/24	定 40 申 17 受 17
4	先人の生き方に学ぶ「大人の道徳時間」 ～没後200年蒲生君平の生き方に学ぶ～ (全3回)	地域活動をしている方や興味のある方を対象に、人間力を高めるために、本市出身の蒲生君平の生き方や思想を学び、自分の生活や地域社会の中でいかに生かせるかを学ぶ講座	・郷土歴史研究家 小林 暁雲 氏 ・市社会教育主事	5/8 ～ 5/22	定 40 申 42 受 42
5	思春期の心と向き合う講座 ～さまざまな相談事例から考える～ (全1回)	主に思春期の子を持つ保護者を対象に、思春期の子どもが置かれている現状を知り、事例を基に親子関係や地域の大人としてのかかわり方を学び、子どもの自立支援について考える講座	・栃木県連合教育会相談部長 丸山 隆 氏	6/30	定 50 申 36 受 36

「(仮称) 第 2 次地域教育推進計画」のフレーム (案) について

◎ 趣旨

「(仮称) 第 2 次地域教育推進計画」(以下「本計画」) を策定するにあたり、設定する項目やその考え方を示すもの

1 各項目の具体的内容と設定の考え方

(1) 基本理念

- 抽出した 4 つの課題の要素を整理統合し、導き出される本計画の目標を「基本理念」として以下のとおり設定する。

「学びを通して、豊かな人間性と人と人との絆を育み、地域ぐるみによる教育活動やまちづくりを支える社会を実現する。」

⇒ 1 「人間力」 2 「地域を支える人材」 = 「豊かな人間性と人と人との絆」、 3 「地域を構成する主体間の連携」 = 「地域ぐるみによる教育活動やまちづくりを支える」、 4 「学習成果の活用」は、基本理念全体として学びを通して育んだ成果を活かして教育活動やまちづくりを支えることを表現している。

(2) 基本目標と基本指標

- 「基本理念」の実現に向け、4 つの課題を解決した状態を整理し、「基本目標」を設定するとともに、「基本目標」ごとにその達成状況を数値で示すものとして、「基本指標」を設定する。

ア 基本目標Ⅰについて

「一人ひとりが人間力を高めるため、主体的に学習活動に取り組んでいます。」

⇒ 地域の教育力向上には、その基盤である個人が自ら積極的に学ぶことが重要であることから、個人の人間力を高めるため学習に取り組んでいる状態を目標とする。【課題 1, 2】

基本指標①「学習活動をしている市民の割合」

43.2% (H23) ⇒ 48.4% (H29)

⇒ 地域全体の教育力向上の基礎となる個々人の人間力の向上を図るための施策・事業に関連する指標として、市民意識調査の上記項目を設定する。

⇒ 目標値は過去の平均値を用い、5.2%増で設定する。

イ 基本目標Ⅱについて

「市民が家庭や地域など身近な場所で、積極的に子どもの育ちなど教育活動に関わっています。」

⇒ 地域の教育力向上には、個人の学習とともに、個人が属する家庭をはじめとした地域で活動する各主体への支援が重要であることから、市民が身近な場所で積極的に子どもの育ちなど教育活動に関わっている状態を目標とする。【課題 2, 3, 4】

基本指標②「放課後子ども教室に係る延べ地域活動者数」

14,716 人 (H23) ⇒ 37,438 人 (H29)

⇒ 住民の身近な場所における教育活動への参加に関連する指標として、放課後子ども教室に係る延べ地域活動者数を設定する。

⇒ 目標値はこれまでの経過や宮っ子ステーションの今後の新規開設数などを考慮し、22,722人増で設定する。

ウ 基本目標Ⅲについて

「学びを通じて、多様な主体がつながり、様々な場面で地域社会づくりに貢献しています。」

⇒ 学んだ成果としての人間力や地域の教育力などを地域社会における様々な活動に活かす「知の循環」が重要であることから、学習成果を地域で活かす視点として、市民が様々な場面で地域社会づくりに貢献している状態を目標とする。

【課題1, 2, 3, 4】

基本指標③「地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合」

56.6% (H23) ⇒ 60.0% (H29)

⇒ 様々な場面で地域社会づくりに貢献している状態を表す指標として、市民意識調査の上記項目を設定する。

⇒ 平成17年度に実施した前回調査結果からの5年間の伸びは2.8%であったが、東日本大震災の影響もあり社会参画に対する機運の高まりが見られることから、3.4%増で目標値を設定する。

(3) 基本施策

各基本目標を実現するために必要な施策・事業の方向性を示すものとして、総合計画基本計画改定の流れも踏まえ、以下の「基本施策」を設定する。

基本施策①「人間力を高める学習環境の醸成」

⇒ ハード整備はおおむね終了したことから、「学習活動の促進」、「社会の要請に応える学習内容」、「人材育成」など、個人の人間力向上を目的としたソフト的なものなど、学習環境に関連するものを取りまとめた。

基本施策②「家庭・地域における教育活動への支援」

⇒ 他計画で取り扱われている学校教育分野を除き、社会教育行政として間接的に支援する領域である「学校教育との連携」及び「家庭教育支援」に関連するものを取りまとめた。

基本施策③「学習成果を地域活動につなぐ仕組みづくり」

⇒ 学びによる資質の向上を図るだけでなく、学んだ成果を活動につなぎ、地域全体として循環させることを視点としていることから、「つなぐ」ために必要な、「地域の魅力発見」や「地域課題の認識」などを含め、広く「つなぐ仕組み」として取りまとめた。

地域教育の現状

社会情勢の変化

- ・ 少子超高齢社会・人口減少社会の進行
- ・ 東日本大震災以降、地域の絆や人と人とのつながりの重要性を改めて認識
- ・ 人々の生活様式、ニーズ、価値観の多様化・複雑化に伴い公共的活動の担い手となる主体も多様化
- ・ 情報通信技術(ICT)が急速に進歩・普及により日常生活や仕事のあり方、学ぶ環境などが変化

国・県の動向

- ・ 中央教育審議会答申(新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について)(平成20年2月)
- ・ 栃木県生涯学習推進計画四期計画「新・とちぎ学びかがやきプラン」の策定(平成23年3月)

宇都宮市地域教育推進計画等の評価(別紙)

基本目標1:一人ひとりが人間力を高め、さまざまな場面で地域社会づくりに貢献しています。

- ・ 子どもの体験活動に資する取組が進展
- ・ 社会貢献活動や地域に目を向けた取組が進展

〔基本指標1〕
地域活動等に参加している市民の割合
(目標 H24 60%)
(H17) 53.8% ⇒ (H23) 56.6%

基本目標2:家庭や地域の大人たちが交流しあい、たくさんの大人によって子どもたちが育まれています。

- ・ 地域の教育力を活かした学校支援のための人材育成が進展

〔基本指標2〕
地域の子どものために何らかの活動をしている市民の割合
(目標 H24 40%)
(H19) 25.1% ⇒ (H23) 24.1%

基本目標3:一人ひとりが、自分にあったさまざまな学習や学習支援活動を行っています。

- ・ 市民の主体的な学習活動に向けた支援の強化
- ・ 人づくりを推進する基盤の整備

〔基本指標3〕
自分にあった学習の場や機会を得ることができていると感じている市民の割合
(目標 H24 50%)
(H19) 36.1% ⇒ (H23) 39.4%

各種アンケート調査の結果

- ・ 生涯学習の必要性を感じている割合 (H17)92.5% ⇒ (H23)90.1%
- ・ 現在、学習・文化・スポーツ活動をしている割合 (H23)43.2%
- ・ 学んだ知識・技能を活かしている割合 (H19)43.8% ⇒ (H23)23.7%
- ・ どのように活かしているかの割合等
自分の人生が豊かになっている (H19)63.5%で1位 ⇒ (H23)68.0%で1位
自分の健康維持・増進に役立っている (H19)29.2%で5位 ⇒ (H23)42.9%で2位
- ・ 近所と親しく付き合っていない市民の割合 (H19)64.5% ⇒ (H23)68.0%
- ・ 家庭の教育力が低下していると思う市民の割合 (H19)83.1% ⇒ (H23)70.1%
- ・ 地域の教育力低下を感じている市民の割合 (H19)55.6% ⇒ (H23)47.5%
- ・ 今の大人に感じる問題(7項目中の順位)
ルールを守れない大人やモラルのない大人が増えている (H23)81.4%で1位
周囲の人や地域とのつながりを持っていない大人が増えている (H23)68.4%で2位

今後の地域教育推進に関する課題

1 学びによる人間力の向上

地域住民一人ひとりが、人間力を高めるための学習環境を整える必要があります。

- ・ 学びに向けた意識醸成が必要
- ・ 参加しやすい学習環境が必要
- ・ 仲間づくりや交流機会の充実が必要
- ・ 社会性や適応力を高める学習機会が必要

2 地域を支える人材の育成

地域社会の牽引役となる人材やまちづくりの主体となる人材の育成を進めていく必要があります。

- ・ 地域課題等に関する学習の充実が必要
- ・ 地域社会やまちづくりを支える人材の育成が必要

3 地域を構成する各主体の支援、連携強化

家庭、学校、地域団体、企業など地域を構成する各主体の教育活動や学びに対する支援、相互の連携強化を図る必要があります。

- ・ NPOや市民活動団体などとの協働が必要
- ・ 企業との連携による取組が必要

(社会教育行政による)学校・家庭教育支援の充実が必要
地域社会全体による家庭教育支援が必要

4 地域における学習成果の活用の促進

地域における学習成果の活用を促進する必要があります。

- ・ 活動へのきっかけづくりが必要
- ・ 学習成果を活かす機会の充実が必要
- ・ 学んだ人材が活動できる循環を促す仕組みづくりが必要

基本理念

学びを通して、豊かな人間性と人と人との絆を育み、地域ぐるみによる教育活動やまちづくりを支える社会を実現する。

基本目標

I 一人ひとりが人間力を高めるため、主体的に学習活動に取り組んでいます。

基本指標①
学習活動をしている市民の割合
43.2%(H23)⇒48.4%(H29)

II 市民が家庭や地域など身近な場所で、積極的に子どもの育ちなど教育活動に関わっています。

基本指標②
放課後子ども教室に係る延べ地域活動者数
14,716人(H23)⇒37,438人(H29)

III 学びを通じて、多様な主体がつながり、様々な場面で地域社会づくりに貢献しています。

基本指標③
地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合
56.6%(H23)⇒60.0%(H29)

基本施策・施策・考えられる取組

① 人間力を高める学習環境の醸成

地域の教育力向上には、その基盤である個人が自ら積極的に学ぶことが重要であることから、個人の人間力を高めるため学習に取り組んでいる状態を目指します。

- 主体的な学習活動への支援
 - ・ 学習情報提供・学習相談事業
 - ・ 生涯学習センター事業の充実
 - ・ 市民大学の充実
 - ・ 地域教育メッセの充実
 - ・ 図書館サービスの充実
- 自立した個人の養成
 - ・ 生活課題解決型講座の充実
- 社会の変化に対応した学習機会の充実
 - ・ 人権教育の推進
 - ・ 国際理解教育の推進
 - ・ ワークライフバランスの推進
- 地域で活躍する人材の育成
 - ・ 学校支援ボランティア養成事業の充実
 - ・ 家庭教育サポーター養成事業の充実
 - ・ 生涯学習コーディネーターの育成
- 成人の教育の充実
 - ・ 「富しぐさ」事業の実施
 - ・ 大人のための道徳講座の充実
- 読書活動の推進
 - ・ 子ども読書活動の推進

② 家庭・地域における教育活動への支援

地域の教育力向上には、個人の学習とともに、個人が属する家庭をはじめとした地域で活動する各主体への支援が重要であることから、市民が身近な場所で積極的に子どもの育ちなど教育活動に関わっている状態を目指します。

- 家庭教育支援の充実
 - ・ 「親学」の推進
 - ・ 家庭教育支援講座の充実
 - ・ 家庭教育サポーターの活動支援
- 学校教育支援の充実
 - ・ 学校支援ボランティア研修の充実
 - ・ 街の先生事業の推進
 - ・ 魅力ある学校づくり地域協議会支援会議を通じた活動の支援
 - ・ 地域コーディネーターの確保と研修の充実
 - ・ 地域学校園内における連携の促進
- 地域での育ち・育てを高める環境づくり
 - ・ 宮っ子ステーション事業の充実
 - ・ 青少年の居場所づくり事業の充実
 - ・ 地域子育て支援センター事業の推進
 - ・ 市民総ぐるみの環境点検活動の推進
 - ・ 地域教育力向上啓発事業の充実

③ 学習成果を地域活動につなぐ仕組みづくり

地域の教育力向上には、学んだ成果を地域社会における様々な活動に活かす「知の循環」が重要であることから、学習成果を地域で活かす視点として、市民が様々な場面で地域社会づくりに貢献している状態を目指します。

- 学びと活動をつなぐ仕組みづくり
 - ・ 人材バンクの構築
 - ・ 地域かがやきプロジェクト事業の推進
- 多様な活動主体間の連携促進
 - ・ 社会教育関係団体との連携
 - ・ みやシニア活動センター事業の充実
 - ・ まちづくりセンター事業の推進
 - ・ 企業との連携
- 地域の課題解決に向けた取組の推進
 - ・ 地域学講座の実施
 - ・ 地域かがやきプロジェクト事業の推進
 - ・ 地域課題解決に向けた学習プログラムの開発・提供
 - ・ 地域課題解決に向けた図書館レファレンスの充実
- ふるさと教育の推進
 - ・ 郷土愛を育む事業の充実
 - ・ 地域学講座の実施
 - ・ 成人式における地域交流事業の推進

地域教育推進計画の評価	親力向上支援プランの評価	成人教育の推進に向けた取組状況	地域教育推進にかかるその他の取組状況 (青少年教育, 学校教育との連携など)
<p>基本施策1 社会の変化に対応する社会教育の充実</p> <p>○ 子どもの体験活動に資する取組や地域に目を向けた取組が進展している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども情報センター事業の拡充 子ども読書活動の推進 団塊世代の地域デビュー促進事業の実施 「宮ふるさと子ども塾」の実施 うつのみやの地域学の実施 <p>● 実施できていない事業や進捗が遅れている事業があり、施策全体を通じた目標達成状況は低調となっている。</p> <p>基本指標 地域活動等に参加している市民の割合 53.8%(H17)⇒56.6%(H23) 60.0%(H24 目標値)</p>	<p>基本指標 子育てが楽しいと感じる割合 64.1%(H19)⇒71.0%(H24) 70%(H24 目標値)</p>	<p>○ 人材かがやきセンターや各生涯学習センター等において、成人教育の答申を踏まえた下記の講座等を実施している。</p> <p>地域社会の牽引役となる大人に焦点を当てた行動計画の策定を検討</p>	<p>地域教育に含まれる教育分野のうち、行動計画や答申等として個別に取り扱われていない、青少年教育や学校教育との連携などについては、下記の事業等に取り組んでいる。</p>
<p>基本施策2 家庭・地域における教育活動への支援</p> <p>○ 家庭教育支援や学校との連携に関わる事業は順調に進捗している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育講座の充実 ファザーリングの推進 新成人に対する親学の実施 家庭教育支援センター機能の整備 学校支援ボランティア研修の実施 宮っ子ステーション事業の実施 地域と連携した魅力ある学校づくりの推進 <p>● 施策全体を通して地域の教育力向上に関わる事業の進捗が遅れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域教育力向上啓発事業の充実 地域スポーツクラブの育成 <p>基本指標 地域の子どもたちのために何らかの活動をしている市民の割合 25.1%(H19)⇒24.1%(H23) 40.0%(H24 目標値)</p>	<p>基本方針1 人とつながる場や機会の充実</p> <p>○ 親同士、親子、異世代間など様々な交流機会が充実している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育サポーターの活動開始 宮っ子ステーション事業等を通じた地域の大人と児童の交流 	<p>人間力を高める事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 先人の生き方に学ぶ「大人の道徳時間」 大人が守る、子ども達の安全な地域活動！！ 生涯学習センターにおける成人対象事業 <p>生涯学習センター18館において、平成23年度は72講座延べ10,316が受講しており、地域教育を支える大人の学習機会としての貢献度は高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> みやシニア活動センターによる「地域デビュー講座」 <p>シニア世代が持つ豊かな知識や経験がまちづくりや地域福祉に活かされ、シニア世代の生きがいがいづくりや地域参画のきっかけとして推進している。</p>	<p>基本施策1 【青少年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども情報センター事業の拡充 宮っ子ステーション事業の実施 青少年の居場所づくり事業の拡充 あすなる青年教室 仲間づくり推進事業 宮っこフェスタ 子ども読書活動の推進 宇都宮ジュニア未来議会 成人式 生涯学習センターにおける青少年対象事業
<p>基本施策3 市民の主体的な学習活動の促進</p> <p>○ 市民の主体的な学習活動に向けた支援は充実している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習コーディネーターの養成事業の拡充 市民大学の充実 市民運営講座事業の拡充 人材かがやき支援事業の実施(地域教育メッセ) 	<p>基本方針2 子育て期に応じた親学支援</p> <p>○ 中高生から祖父母まであらゆる年代に応じた学習機会が提供されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファザーリングの推進 情報誌の発行 新成人に対する親学の実施 家庭の教育手帳の活用促進 	<p>新規の学習者を取り込む事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかでスローな夜を過ごしませんか 	<p>基本施策2 【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校支援ボランティアの研修の実施 P T A指導者研修の実施 「街の先生」活動事業 地域はみんなの学校づくり事業 魅力ある学校づくり地域協議会の支援 宮っ子ステーション事業の実施
<p>基本施策4 推進体制の整備</p> <p>○ 人づくりを推進する基盤の整備が図られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターの機能強化 人材かがやきセンターの開設 南図書館の開館 <p>基本施策3・4にかかる指標</p> <p>基本指標 自分にあった学習の場や機会を得ることができていると感じている市民の割合 36.1%(H19)⇒39.4%(H23) 50.0%(H24 目標値)</p>	<p>基本方針3 組織がつながり社会で支える親力向上支援体制の構築</p> <p>○ 親力向上支援体制の構築が図られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇都宮版C S Rの取組の推進 家庭教育支援センター機能の整備 学校や関係機関、企業、家庭教育支援団体との連携強化 	<p>相互交流型事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> パパがプロデュース！子どもの心をつかむワイルド海賊塾 あなたもできる！仲間が増える子ども会活動 市民大学におけるコミュニケーション学コースの設置 <p>学習成果を社会・地域での活用につなげる事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材バンクの構築に向けた検討 地域かがやきプロジェクト事業 地域教育メッセの充実 <p>出展団体と市民、また出展団体同士が交流しながら活動紹介や情報交換ができ、市民の地域活動への参加や団体の活性化につながるきっかけとなっている。</p>	<p>基本施策3 【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習情報提供システム 生涯学習指導員・地域教育指導員の配置 <p>基本施策4 【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市図書館と学校図書館のネットワーク <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育主事有資格者の養成・活用の充実 生涯学習センター事業の充実 図書館・視聴覚ライブラリーの整備・充実

凡例 ○：順調に進捗している事項 ●：進捗が遅れている事項 ・：関連する施策事業

「(仮称) 第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の 現状と課題等について

◎趣旨

「(仮称) 第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の策定にあたり、関連計画の取扱い、計画の現状と課題について協議するもの

1 関連計画等の取扱いについて **別紙1**

「(仮称) 第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の策定にあたり、当該計画と密接な関連を持つ「子ども読書活動推進計画」を兼ねる計画として策定を進めるものとする。

2 図書館サービスの現状と課題について **別紙2**

計画の策定を進めるにあたり、図書館を取り巻く状況や市民の意識、現行計画の評価等の現状から、今後の主な図書館の課題を導き出す。

※(参考) 現行計画の構成

I 計画策定の趣旨	計画の趣旨, 位置付け, 計画の期間
II 現状と課題	市民の意識, 宇都宮市の状況, 宇都宮市図書館の課題など
III 基本的な考え方	基本理念, 基本目標
IV 組織体制の明確化	サービス提供体制, 各図書館の特色あるサービス
V 具体的施策・事業	施策1～6
VI 重点施策	重点施策
VII 計画の推進	進行管理, 推進体制

3 計画策定に係る意見聴取について

計画策定にあたり、社会教育委員の会議に参考となる情報を提供するため、専門家や身近な利用者（以下「参考人」という。）の意見聴取の手法について報告するもの

(1) 意見聴取の場

- ・ 既存の館長会議において、外部の専門家等の参考人を交えて設定する情報交換会で意見を聴取
- ・ 結果については、図書館長が社会教育委員の会議において報告

(2) 意見聴取の内容

図書館の機能，サービス及び事業にかかる情報交換のほか，図書館と関係機関・団体との連携状況などに関すること

(3) 参考人（10名程度）

学識経験者，学校教育関係者，読書関係団体，利用者代表 等

(4) 開催回数

必要に応じ，年2～4回

(5) その他

参考人は，依頼により館長会議に出席

(6) 意見聴取スケジュール

平成24年11月～	館長会議
11月中旬	社会教育委員の会議へ報告

「図書館機能・サービス向上計画」と関連計画等の取扱いについて

◎ 趣旨

「図書館機能・サービス向上計画」の次期計画策定にあたり、当該計画と密接な関連を持つ、「第2次子ども読書活動推進計画」の取扱いについて協議するもの

1 「第2次子ども読書活動推進計画」の評価について

- ・「子どもの1か月の読書量〔指標1〕」については、高校生は計画策定時より読書量が減少している。小中学生はいずれも読書量は増加しており、中学生は目標値には至らないものの増加傾向にあり、小学生は目標値を大きく超え、概ね順調に進捗している。
- ・「読書に対して肯定的な考えを持つ子どもの割合〔指標2〕」については、中学生・高校生は若干ではあるが、計画策定時より読書について肯定的な考えを持つ子どもが増えたが、目標値には至っていない。小学生は、読書について楽しいと感じる子どもが目標値を超えて増加し、概ね順調に進捗している。
- ・「市図書館と学校図書館の総貸出数〔指標3〕」については、市図書館、学校図書館のいずれにおいても、貸出冊数は計画策定時より増加しており、順調に進捗している。
- ・「子どもの読書に関わるボランティアの活動人数〔指標4〕」については、計画策定時と比較し、特に小中学校における読み聞かせボランティアの人数が減っているため、全体の実績が減少しており、順調ではない。

2 今後の課題

上記の評価より、「子ども読書活動推進計画」においては、“中高生の読書推進”及び“読み聞かせボランティアの人材育成”が挙げられる。

3 今後の方向性

以下の理由により、「(仮称)第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の策定にあたり、「第2次子ども読書活動推進計画」の改定時期を1年前倒しし、「(仮称)第3次子ども読書活動推進計画」を兼ねる計画として改定作業を進めるものとする。

〔統合の理由〕

- ・「第2次子ども読書活動推進計画」に基づき子どもの読書推進を進めてきたが、今後、中高生の読書量を増やすとともに読み聞かせボランティアの人材育成のためには、「図書館機能・サービス向上計画」における事業の見直しや連携等により総合的に推進していくことが効果的であること
- ・単一の計画とすることで、施策間の関係や連携等の把握が容易となることから、市民に対して分かりやすい計画となること
- ・計画策定後の事業の進行管理や計画評価等が一本化されることから、事務の効率化を図ることが可能となること

図書館サービスの現状と課題

本市図書館の現状

- 5館体制で、17のサービスポイント
- 貸出数(4,566,016冊)、利用者数(892,889人)、蔵書数(1,648,510点)、いずれも中核市トップクラス(数値は平成23年度のもの)
- 特色あるサービスの展開
 - ・中央図書館：地域資料・行政支援・障がい者
 - ・東図書館：科学技術情報、ビジネス情報
 - ・南図書館：子ども、学校支援、子育て・家庭教育支援
- 施設の老朽化
 - ・中央図書館：築後31年
 - ・東図書館：築後20年
 - ・上河内図書館：築後20年
 - ・河内図書館：築後26年
- 南図書館への指定管理者制度の導入(平成23年度)

図書館を取り巻く状況

◆社会情勢の変化

- 高度情報化社会の進展**
 - ・インターネットや電子図書の普及等、多くの情報が氾濫し、その取捨選択が求められている。一方、情報弱者と呼ばれる市民との格差はますます拡大している。
- 高齢社会の進行と市民ニーズの高度化・専門化**
 - ・急速な高齢社会の進行や市民の価値観の多様化に伴い、その興味・意識も高度化・専門化が進んでおり、施設設備においても図書館はさまざまな市民ニーズに対応していく必要がある。
- 子どもの読書量の低下**
 - ・中学・高校と進むにつれ、塾や部活動などに忙しくなり、読書の時間を取りづらい状況にある。

◆国や県の動向

- 「図書館法」の改正(平成20年6月)
 - ・収集すべき資料に『電磁的記録(CD・DVD、データベース等)』を追加
- 「栃木県立図書館あり方検討委員会報告書」(平成24年1月)
 - ・県立図書館と市立図書館の役割分担について等

◆「(仮称)第2次地域教育推進計画」

- 概要 「みや図書館サービスプラン」の上位計画として、今年度、策定作業を進めている計画
- 今後の地域教育推進の課題
 - ① 学びによる人間力の向上：地域住民が人間力を高めるための学習環境を整える必要がある。
 - ② 地域を支える人材の育成：まちづくりの主体となる人材等の育成を進める必要がある。
 - ③ 地域を構成する各主体の支援、連携強化：家庭、学校、地域団体、企業など地域を構成する各主体の教育活動や学びに対する支援等を図る必要がある。
 - ④ 地域における学習成果の活用の促進：地域における学習成果の活用を促進する必要がある。

◎課題

- 高度情報化への対応**
 - ・より高度化するICT化を進め、市民が求める情報要求に対応していくことが必要
 - ・高度化するICTに対応するためには、施設・設備の改修等が必要
- 高齢化や多様化する市民ニーズへの対応**
 - ・多様化する市民ニーズに伴い、高度化・専門化するレファレンスに対応できる司書の育成、資料の充実等が必要
 - ・高齢社会の進行に伴い、施設のバリアフリー化が必要
- 若年世代の読書活動の推進**
 - ・将来を担う子どもたちのため、読書活動を推進していくことが必要
- 県立図書館等との連携**
 - ・適切な市民サービスを提供するために、県立図書館等との役割分担・連携強化を図っていくことが必要
- 人づくりやまちづくり支援への対応**
 - ・個人への課題解決支援だけでなく、地域の課題を解決するための人づくりやまちづくり活動への支援が必要

今後の図書館サービスの課題

①レファレンス・課題解決型サービスの更なる強化

- 市民ニーズに対応するため、レファレンス・課題解決型サービスの、これまで以上の強化が必要
- ・レファレンスに的確に対応できる図書資料を始めとするレファレンスツールの充実が必要
- ・地域資料や地域の課題解決に役立つ情報を収集提供し、人づくり・まちづくり活動を支援する役割を担うことが必要
- ・レファレンスに対応できる司書の能力向上が必要

②ICTの導入促進と電子情報サービスの充実

- 普及が進んでいる電子図書の導入検討、高度化するICTへの対応など、市民ニーズに対応できる資料や設備の充実が必要
- ・データベース・インターネット情報提供の充実が必要
- ・デジタルアーカイブ(古文書など貴重本の保存体制の整備)の推進が必要
- ・電子図書等、新たな媒体の導入検討が必要

③子どもの読書活動の推進

- ほぼ順調に推移する小学生の読書活動の推進を継続するとともに、中・高校生の読書活動の推進が必要
- ・小中学校への読書支援をこれまでどおり継続することが必要
- ・中・高校生への読書推進の充実を図ることが必要
- ・特別支援学校などと連携した子どもの読書活動支援が必要
- ・子ども読書活動に関わるボランティアの人材育成が必要

④図書館の環境整備と適切な図書館運営

- 市民ニーズを踏まえた適切なサービスを提供できるよう、読書環境の充実やバリアフリー化を進めるとともに、よりよい図書館運営体制の構築が必要
- ・障がい者や外国人、幅広い年齢層の利用者を対象に実施しているさまざまな図書館サービスを、市民に広くPRするなど、更なる利用の促進が必要
- ・ユニバーサルデザインに配慮するなど、快適で誰もが利用しやすい施設への再整備が必要
- ・中央館機能の向上や指定管理者制度の運用など、効果的・効率的な管理運営体制の充実が必要

市民の意識

◆市民意識調査

- ・図書館の利用目的
「本を無料で利用するため」(56%)、「調べもののため」(51%)の回答が多い。
- ・図書館等を利用しない理由
「必要がない」(43%)、「時間がない」(39%)の回答が多い。
- ・図書館に望むこと
「調べたいことがわかる本がある」(81%)、「読みたい本が豊富にある」(80%)、「必要な本が探しやすい・すぐ手に入る」(79%)の回答が多い。

◆図書館利用者アンケート

- ・図書館での充実の希望
「本や雑誌、新聞の充実」(30%)、「CDやDVDなどの充実」(21%)、「本を読みやすい机や椅子を用意する」(14%)などの希望が多い。
- ・図書館が目指すべき方向性
「趣味や仕事の参考になる本や情報を増やす」(20%)、「人気の本を増やし、予約待ちを減らす」(19%)などの意見が多い。
- ・インターネットの利用の有無
「利用する」(71%)との回答だった。10代から50代はいずれも70%以上の利用率であり、特に20代は90%以上が利用している。

◆一般読書アンケート

- ・読書や調べものに必要な本の用意のしかた
「図書館で借りる」(55.2%)、「購入する」(27.7%)の回答が多い。

◆高校生読書アンケート

- ・本を読まない理由(第2次調査時との比較)
「読みたいが読めなかった」が増加。理由として「勉強・塾等で時間がなかった」が顕著に増加している。
- ・市の図書館に望むこと
「学習設備(机や椅子)が整っている」ことが増加。

「みや図書館サービスプラン」の評価

施策1：図書館図書空間のネットワークや関連機関との連携体制の整備

指標 予約数
234,647件(H18) → 281,576件(H24)
現状 538,758件(H23)
HPアクセス件数
251,909件(H18) → 302,291件(H24)
現状 571,797件(H23)

⇒ 順調

施策2：小中学校図書館との連携体制強化と学校や教職員への支援

指標 学校希望図書貸出冊数
2,604冊(H18) → 3,125冊(H24)
現状 23,090冊(H23)
学校希望図書利用学校数
46.2%(H18) → 100%(H24)
現状 92.5%(H23)

⇒ 概ね順調

施策3：ICTを導入した高度な情報提供の推進

指標 インターネット閲覧可能パソコン台数
中央3台、東4台、上河内・河内各1台(H18) → 中央・東各10台、上河内2台、河内4台(H24)
現状 南10台導入(H23)

⇒ 順調ではない

施策4：レファレンスと課題解決型サービスの充実

指標 レファレンスに対する利用者満足度
42.6%(H18) → 52.6%(H24)
現状 52.6%(H23)
パスファインダーの作成件数
5件(H18) → 30件(H24)
現状 19件(H23)

⇒ 概ね順調

施策5：さまざまな利用者に対応したサービスの充実

指標 中・高校生の年間貸出人数
30,140人(H18) → 33,277人(H24)
現状 31,101人(H23)
総登録者数
166,165人(H18) → 182,892人(H24)
現状 169,379人(H23)

⇒ 順調ではない

施策6：市民ニーズに応じた効果的・効率的な管理運営

指標 館内の読書環境に関する利用者満足度
66.1%(H18) → 80%以上(H24)
現状 82.0%(H23)

⇒ 順調

「第2次子ども読書活動推進計画」の評価(指標の達成度による評価)

(1)子どもの1か月の読書量

小学生：20.1冊(H20) → 20冊(H25) 現状 28.5冊(H23)
中学生：6.2冊(H20) → 9冊(H25) 現状 8.4冊(H23)
高校生：1.7冊(H20) → 3冊(H25) 現状 1.4冊(H23)
・高校生については、計画策定時より読書量が減少している。小中学生は、いずれも読書量は増加しており、中学生は目標値には至らないものの、小学生は目標値を大きく超えている。

⇒ 概ね順調

(2)読書に対して肯定的な考えを持つ子どもの割合

小学生：80.0%(H20) → 85.0%(H25) 現状 86.5%(H23)
中学生：45.0%(H20) → 55.0%(H25) 現状 50.6%(H23)
高校生：53.6%(H20) → 65.0%(H25) 現状 54.1%(H23)
・中学生・高校生については、若干ではあるが、計画策定時より読書について肯定的な考えを持つ子どもが増えた。小学生については、読書について楽しいと感じる子どもが目標値を超えて増加している。

⇒ 概ね順調

(3)市図書館と学校図書館の総貸出数

5,035,901冊(H20) → 6,000,000冊(H25)
現状 6,522,092冊(H23)
・市図書館、学校図書館のいずれにおいても、貸出冊数は計画策定時より増加している。

⇒ 順調

(4)子どもの読書にかかわるボランティアの活動人数

1,642人(H20) → 1,800人(H25)
現状 1,236人(H24)
・計画策定時と比較し、特に小中学校における読み聞かせボランティアの人数が減っているため、全体の実績が減少した。

⇒ 順調ではない